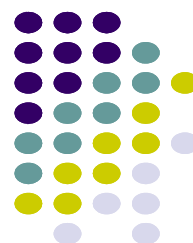


生地品質標準試験要領と インターネット活用による 情報共有の意義およびその 普及に向けて



平成17年3月

独立行政法人

中小企業基盤整備機構

生地品質標準試験要領の普及にあたって

アパレル業界ではQR/SCMの進展によりリードタイムの短縮が品質試験にも求められ、IT化を見据えた試験項目の標準化に対する要望が大きくなっています。

当協会では2003年1月よりアパレル6社、試験事業者6団体からなる品質試験標準検討委員会をSCM推進委員会内に設置し、生地の品質に関する試験要項と試験成績報告書の標準化を検討し、5月に報告書として作成するとともに中小企業総合事業団(現:中小企業基盤整備機構)の主催で東京・大阪・福岡の各地区においてセミナーを開催し普及活動に努めて参りました。しかし、活動は緒に着いたばかりであり、標準化されていることすら知らないアパレル企業が大半なのが現状であります。ましてや川上のコンバーター、テキスタイル、染色・整理等の企業にはその存在さえ知られていないのも事実です。

このため、アパレルの品質管理担当者のみでなく、MD、生地調達担当者、さらには川上の商社・生地卸商、テキスタイル企業の担当者が品質管理の重要性や試験要領の標準化の必要性をよく理解し、仕事の中でそれを実践できる分かりやすいテキストを作成し、普及することが急務となっています。

幸いなことに、この度、中小企業基盤整備機構と連携して、非常にタイムリーに普及テキストの作成を実現することができました。

このテキストは、アパレルと試験事業者の両面から見た品質管理の意義、標準化の流れ、(社)日本アパレル産業協会の標準試験要領、試験成績報告書、先行事例等を掲載すると共に、アパレル・テキスタイル間のEDIネットワークである「ATネット」上での成績報告書のやり取りを詳しく解説しています。

生地の品質試験情報を共有できれば、クレーム事故を未然に防ぐことが可能となり、消費者に対しても大きなメリットとなります。まして、それがwebを経由したネットワーク上で簡単に実現できるとすればより迅速に対応ができ、より大きな効果を生むこととなります。

「ATネット」は経済産業省が新繊維ビジョンの中で情報共有のための活用支援を謳うネットワークです。この品質試験報告システムの普及は品質試験標準普及の重要なファクターであり、また業界が現在取り組んでいるAT間の取引改革にも貢献することになるのではないのでしょうか。

このテキストが広く使われ、早期に標準化が行きわたることを願ってやみません。

なお、普及テキスト作成に当たり多くの方々にご協力いただきました。誌面をお借りしてお礼申し上げます。

社団法人 日本アパレル産業協会
SCM 推進委員会委員長
深澤 恒夫

目 次

1.なぜ、品質管理が重要か	1
1.1 品質管理と品質保証	1
1.2 衣料品を取り巻く環境の変化	5
1.3 企業の社会的責任（CSR）	7
1.4 多品種・高感度・高品質・短サイクル・少量生産時代の品質管理	9
1.5 経済産業省「新繊維ビジョン」で提言されている品質管理とIT活用の重要性	11
2.生地に関する「試験要領」と「試験成績報告書」の標準化について	14
2.1 品質試験標準検討の経緯	14
2.2 「標準試験要領」「試験成績報告書」の運用と期待される効果	22
2.3 ATネットでの運用について	22
2.4 「標準試験要領」「標準試験成績報告書」の普及、試験データのIT化	23
3.先行企業事例	24
3.1 先行事例1（株三陽商会）	24
3.2 先行事例2（株オンワード樫山）	31
3.3 先行事例3（イトキン株）	35
4.検査機関から見た品質試験情報の標準化	42
5.インターネットを活用した情報共有（ATネット物性試験情報共有サービスを中心に）	54
5.1 ATネットとは	54
5.2 ATネット物性試験情報共有サービスとは	56
5.3 基本操作方法について	59
5.4 応用操作方法について	61
5.5 サービス・サポート	63
5.6 インターネット環境の準備について	64
5.7 自社個別システムを構築する場合の留意点	66
5.8 まとめ（IT活用による情報共有化のメリット）	67
【AT ネット物性試験情報共有サービス 操作編】	
1. 基本操作方法	77
2. 応用操作方法	84

